



日本パラグライダー協会
2006 年度
JPA オーガナイザーハンドブック
Ver. 1.4







 変更項目

JPA オーガナイザーハンドブック 2006

このオーガナイザーハンドブックは、日本パラグライダー協会（JPA）公認大会における、主催者の運営のために作成されています。

はじめに

JPA 公認大会を行う主催者は、競技大会が安全かつ円滑に運営されることを常に配慮し、選手の育成を目的とし、以下の項目に沿って運営されなければならない。

目次	変更項目
1 . 概要	4
2 . 大会の承認	4
3 . 公認申請の方法	4
4 . 大会開催日程	5
5 . 競技ルール	5
7 . 追加措置	5
8 . 大会役員構成 	5
8 . 1 大会役員の役割と責任 	5
9 . 大会開催に関する規則	6
9 . 1 航空法	6
9 . 3 タスクセッターのガイドライン	6
9 . 4 保険	6
9 . 5 施設に関する規則	6
10 . エントリー受付	7
10 . 1 受付	7
10 . 1 . 1 JPA・ナショナル・リーグ（JNL）	7
10 . 1 . 2 JPA・オープン・リーグ（JOL）	7
10 . 2 セレクション	7
10 . 2 . 1 JPA・ナショナル・リーグ（JNL） 	7
10 . 2 . 2 JPA・オープン・リーグ（JOL）	8
10 . 3 エントリーフィー 	8
10 . 4 主催者費用 	8
11 . 本部施設 	9
11 . 1 本部施設	9
11 . 2 テイクオフ設備	9
11 . 3 ゴール設備	9

1 2 . 競技に関する規則	10
1 2 . 1 スコアリング ㊦	10
1 2 . 2 ソフトウェア	10
1 2 . 3 競技規則の変更 ㊦	10
1 2 . 4 公式掲示.....	10
1 2 . 5 プリーフィング.....	10
1 2 . 6 ペナルティー	10
1 2 . 7 タスクセット	11
1 2 . 8 安全について	11
1 2 . 9 安全確認.....	11
1 2 . 1 0 タスクボードへの記載事項.....	11
1 3 . 救助方法	11
1 3 . 1 目的	11
1 3 . 2 事故の通報後	11
1 3 . 3 事故現場到着後.....	11
1 3 . 4 怪我人の保護と救助 ㊦	12
1 4 大会終了後の規則 ㊦.....	12

1. 概要

各公認大会の競技規定は、FAI Sporting CordのGeneral Section及びSection 7を前提とし設定されている。主催者はその双方を良く理解した上で大会を運営すること。

公認大会ルール、大会公認申請用紙、主催者への注意事項はJPAホームページ上で適時更新されるので、主催者は確認し常に新しい情報を収集すること。(競技事業部からの公式発表は全てホームページより行われる。)

2. 大会の承認

主催者から提出された開催申請に対して、JPA(日本パラグライダー協会)競技事業部にて公認大会ルールに沿って検討され、問題がなければ承認される。開催について変更箇所が指摘されれば、主催者はこれに従って変更しなければならない。

3. 公認申請の方法

大会の公認を希望する主催者は以下の項目を含んだJPA所定の申請書を提出しなければならない。

- ・ JPA正会員であること。
- ・ 主催者の住所と大会本部の設置場所
- ・ フライトエリア名、住所
- ・ 大会実行委員長名、競技委員長名
- ・ 大会日程
- ・ 予備日を設定する場合には、その旨と予備日使用のためのルールを開催要項に明記すること。
- ・ 大会役員構成
- ・ 本部施設
- ・ 宿泊施設の情報
- ・ 選手の輸送方法
- ・ 大会スケジュール
- ・ ローカルルール
- ・ ターンポイントとその座標が記載されたエリア地図(5万分の1)
- ・ 予定タスクとその距離
- ・ 緊急時の救急チャート

JPA所定の大会公認申請用紙に必要事項を記入し大会開始2ヶ月前までにJPA事務局に郵送またはファイル(Word, Excel, Access)にて提出のこと。

選手への案内郵送の為に選手データが必要な主催者は、申請用紙に必要事項を記入し大会申請時に提出すること。このデータは、あくまでも大会開催においてのみ使用すること。

4. 大会開催日程

大会期間は連続した日とする。

5. 競技ルール

JPA 公認大会規定に基づいて行われる。ローカルルールがある場合は、JPA 競技事業部で承認される必要がある。

ローカルルールは事前に参加選手に広報されること。

7. 追加措置

気象条件によりレースを行う事が不可能とされるときには、主催者は追加の競技を地元、そしてメディアの為に行わなければならない。2005 年度はフライトが可能であれば、アキュラシーの大会を実施する。

又、フライト不可能な日には他の提案をすること。

8. 大会役員構成

実行委員会は下記に合わせて役員を構成しなければならない。(以下の役員については選手が兼任しないこと)

- ・ 大会実行委員長
- ・ 大会競技委員長
- ・ テイクオフディレクターとテイクオフスタッフ
- ・ ゴールディレクターとゴールスタッフ
- ・ 本部役員（気象情報や成績結果の表示）
- ・ GPS スコアリング・オペレーターとその助手
- ・ 選手輸送責任者
- ・ 気象情報収集責任者
- ・ 広報担当者
- ・ 救助活動責任者とそのスタッフ（日赤救急員、消防署での講習を受講していること）
- ・ 必要に応じて気象状況を監視する担当者
- ・ 撮影担当役員
- ・ 報告書担当役員（JPAのHPおよび雑誌掲載記事用のレポートの提出をする）

8.1 大会役員の役割と責任

大会本部の役割

- ・ 選手受付
- ・ 大会進行の全体の把握
- ・ 選手輸送責任者と共同して、配車手配
- ・ 本部のPC等で、気象概況をアメダス等で毎時間チェックし、競技委員長へ報告する

- ・ ウェルカムパーティーの手配・準備
- ・ 開会式・閉会式・表彰式会場の進行手配
- ・ 緊急時の連絡網、他手配
- ・ 表彰状への選手の名前の記入
- ・ スタッフ食事手配

実行委員長の役割

大会運営の統括責任者

- ・ スケジュールの調整
- ・ 地元自治体、警察、消防との連絡調整
- ・ 大会が安全かつスムーズに進行するための運営を行う。
- ・ 競技の進行を競技委員長と協力して進行する

競技委員長の役割

大会の競技進行の責任者

- ・ 競技が安全かつスムーズに行えるための決定を行う
- ・ タスクコミッティー・セイフティーコミッティーと協議してタスクの決定を行う

9. 大会開催に関する規則

9.1 航空法

全ての公認大会においては、航空法を遵守した大会運営を行うこと。

9.3 タスクセッターのガイドライン

タスクを決定することは、競技にとって適切であり安全を確保される重要な要素を持っている。主催競技委員長は、以下の物を大会開催申請書に添付しなければならない。

- ・ 飛行領域の谷風の風向
- ・ 危険地帯(ケーブル、送電線等)がある場合には、地図上に明記することと説明文を加える。
- ・ 通常の気象条件で予定される2タスクとタスク距離を明記すること。1つはサーマルコンディションが優れている時。1つはサーマルコンディションが弱い時。
- ・ ターンポイントリストとマップデータ WGS84 での GPS コーディネーション
- ・ ターンポイントが記載されたパイロット用地図

9.4 保険

大会主催者は、1件1億円以上の施設賠償保険に加入していなければならない。JPA 正会員は大会主催において改めて加入する必要はないが、必要に応じて加入すること。

9.5 施設に関する規則

- ・ テイクオフエリアはキャノピーの開傘を確認してからテイクオフ出来る程度に十分広いこと。
- ・ テイクオフエリアは特別なテクニックを必要とせずテイクオフ出来る様に整備されていること。
- ・ ランディングエリアは最小でも直径 50mの円がかかる、ほぼ平面であること。
- ・ ランディングエリアは参加選手の技量に応じたサイズのものとする。

- ・ ランディングエリアは危険となるような穴、切り株、立木等の障害物がないこと。
- ・ フライトコース内に安全に降ろせる緊急ランディング場が確保されていること。
- ・ テイクオフおよびランディングエリアには最低 1 本以上の吹き流し（風見）を設置すること。
- ・ テイクオフエリアに風速計を設置すること。
- ・ フライト場所の使用許可を得ていること。
- ・ フライトコース内の諸行政（役所、警察、消防署等）に対して、当該大会の告知をしておくこと。
- ・ 緊急医療設備の把握、連絡体制を整えること。

10 . エントリー受付

10 . 1 受付

主催者は以下の項目を確認すると共に選手受付を行わなければならない。

主催者は、JPA より選手データを受け取り、選手の登録番号を基に選手受付を行う。

10 . 1 . 1 JPA ・ ナショナル ・ リーグ (JNL)

JNL 登録選手の場合は、登録時に飛行誓約書、使用グライダー誓約書を提出していますが、当日に受付の選手、グライダーが変更になった選手からは飛行誓約書、グライダー使用誓約書を再度受理しなければならない。大会当日受理した書類は大会結果送付時に同送して下さい。

10 . 1 . 2 JPA ・ オープン ・ リーグ (JOL)

JOL に関しては、事前登録している選手以外は JNL 同様、登録用紙、飛行誓約書、使用グライダー誓約書を受理しなければならない。大会当日受理した書類は大会結果送付時に同送すること。

10 . 2 セレクション

10 . 2 . 1 JPA ・ ナショナル ・ リーグ (JNL) ⇨

JPA 会員であり JNL 登録選手を優先し、募集人員に満たない場合にはそれ以外の選手を受け入れる。

参加申込者の受理は JNL 登録選手を優先(実際のエントリー希望者の合計がエントリー枠を超えなかった場合にのみ、空いた分を非 JNL 登録者に開放)する。(ただし JNL に登録していない外国人選手は除く。またカテゴリー2 の大会を除き、そのような外国人選手は別枠と考え、大会のエントリー受け入れ人数に含まれないものとする)参加申し込み者のうち、JNL の登録選手の合計が大会のエントリー受け入れ人数を超えた場合は、前年度ナショナルランキング 30 位以内を優先とし残りを今年度登録者でリーグ登録順かつエントリー申込順により選出、または、前年度ナショナルランキング 30 位以内を優先とし残りを主催者がローカルルールにより選出する。

10.2.2 JPA・オープン・リーグ（JOL）

大会主催者はJPA会員を優先し、定員を超えて参加希望者が集まった場合は所定の方法により参加選手を選考しなければならない。ローカルルールとして大会要項に記載し選考を行う。

10.3 エントリーフィー

主催者は選手よりエントリーフィーを徴収して運営を行う。

JNL以下の表により決定される

	大会2日間開催	大会3日間開催	大会4日間開催
一般 JHFXC 証のみ	20000円	25000円	30000円
JPA EX 証	15000円	20000円	25000円
シード10位以内	5000円	10000円	12000円
JOL C1 トップ3	5000円	10000円	12000円
学生 JPA EX 証	5000円	5000円	5000円

JOL以下の表により決定される。

	大会2日間開催
一般 JHF パイロット証	15,000円
JPA パイロット証以上	10,000円
JNL シード30位以内	5000円
JOL C1 トップ3	5000円
JOL C2 トップ3	5000円
JOL C3 トップ3	5000円
JOL 女子1位	5000円
学生 JPA パイロット証	5000円

アキュラシーランディングにおいてはこの限りではない。

10.4 主催者費用

大会主催者は以下の費用をJPAに支払うこととする。

- ・ 選手一人当たり ￥1,500（ナショナルリーグ）
- ・ 選手一人あたり ￥1,000（オープンリーグ、アキュラシーリーグ）

この費用は事務局の事務運営費、競技事業部の管理運営費に充当させていただきます。

- ・ 大会運営並びにスコアリングのための専任スタッフをJPAより派遣する場合。主催者は、派遣役員に対して主催地への交通費（実費）大会期間中の宿泊費、食事費用（主催者負担）

日当1日¥15,000(大会当日分)が必要となります。

- ・ 交通費の算出方法は(高速道路距離+60km)× ¥25

11. 本部施設

主催者は以下の物を大会本部並びにテイクオフ、ゴール地点に準備しなければならない。

11.1 本部施設

- ・ 大会受付、GPS チェックインの為のスペース
- ・ スコアリングのためのターンポイント、選手名簿
- ・ 電話回線
- ・ 気象情報を得るためにインターネット接続回線
- ・ 電源
- ・ 公式掲示板(1.8m × 0.9m 以上)
- ・ 無線設備(受信状態を良くするために高々度のアンテナ設備)
- ・ 放送設備
- ・ レスキュー用品、応急処置に必要な装備
救急箱、ツリーランセット、水、全身シーネ
- ・ JPA スポンサーメーカーのバナー
- ・ 選手の名札(裏にタイムスケジュール、大会本部の連絡先等を記載)
- ・ スタッフ用の名札(裏に緊急連絡先を記載)

11.2 テイクオフ設備

- ・ 1本以上の吹き流し
- ・ テイクオフエリアを限定する場合には、ポールとロープによって区画する
- ・ 進入ゲートを作る場合には、ポールとロープによって区画する
- ・ 公式時計用のGPS
- ・ タスクボード(1.8m × 0.9m 以上)
- ・ 公式掲示板(1.8m × 0.9 以上)
- ・ 放送設備
- ・ 風速計
- ・ 無線設備(受信状態を良くするために高々度のアンテナ設備)
- ・ レスキュー用品、応急処置に必要な装備
救急箱、ツリーランセット、水、はしご、担架
- ・ JPA スポンサーメーカーのバナー

11.3 ゴール設備

- ・ ゴールライン(幅0.5m × 長さ50m)

- ・ 2本以上の吹き流し（ゴールライン両側に設置）
- ・ 風速計
- ・ 無線設備（受信状態を良くするために高々度のアンテナ設備）
- ・ ゴールポイント確認、公式時計用のGPS
- ・ 計測用ストップウォッチ
- ・ ランディングゾーン
- ・ パッキングゾーン
- ・ 可能であれば公式掲示板（選手へのアナウンスに使用）
- ・ レスキュー用品、応急処置に必要な装備
救急箱、ツリーランセット、水、全身シーネ

12. 競技に関する規則

12.1 スコアリング

- ・ 公認大会でレースを行う場合の得点計算はRACE2002(GAP2000)を用いて行う。
 - ・ パラメーターは固定で行う。（2006年度）
- JNL：ミナルディスタンス20km、ノミナルタイム1H、ミニマムディスタンス5km、ゴール率10%
- JOL：ミナルディスタンス15km、ノミナルタイム1H、ミニマムディスタンス3km、ゴール率10%

12.2 ソフトウェア

主催者はJPA競技事業部で認められたソフトウェアを使用し、判定を行う。
（2005年度公式ソフトウェアは、Check In、Comp GPS）

12.3 競技規則の変更

大会開始後は安全上の理由以外で変更してはならない。ただし協会会長が特に認めた場合はその限りではない。しかし変更した規則を遡って適用することは出来ない。

12.4 公式掲示

- ・ 公式掲示板に救急チャートと救急用品の設置場所をを掲示すること
救急箱、ツリーランセット、水、はしご、担架、全身シーネ
- ・ 公式掲示板、タスクボードに気象情報を掲示すること
- ・ 結果の仮発表ならびに公式発表は可能な限り早く掲示すること

12.5 ブリーフィング

- ・ タスクブリーフィングはテイクオフで選手全員に対して行うこと。パイロン競技を行う場合には、地図、パイロン写真、タスクボードを用いて行うこと。

12.6 ペナルティー

- ・ 大会規則に違反した選手あるいは役員の指示に従わない選手にはペナルティーを与えることが出来る。その度合いによってタスク失格または大会失格とする。
- ・ 重大な危険行為をした選手および不正を働いた選手はその時点で大会失格とする。

12.7 タスクセット

- ・ 競技は行われるカテゴリーの競技ルールに従って行われる。
- ・ 競技タスクは主催される大会に応じたものとする。

12.8 安全について

主催者は、選手の飛行を監視しなければならない。

競技委員長は空中、地上の気象の変化を観察しながら安全な競技の運営を行わなければならない。競技委員長がテイクオフを離れなければならない時には、代替りの担当者を任命して離れなければならない。

事故が起きた場合には、迅速に行動がとれる体制を整えねばならない。

12.9 安全確認

主催者は、選手が安全にランディングした事を出来るだけ早く確認しなければならない。

12.10 タスクボードへの記載事項

- a) 一般 : 日付、大会名、協力エリア
- b) タスク内容 : タスクの種類、タスクディスタンス、ミニマムディスタンス、フィニッシュラインクローズ時刻、ゲートオープン時刻、ゲートクローズ時刻、ランディング報告時刻、帰着申告時刻
- c) 安全に関する情報 : 帰着申告用電話番号、大会本部の電話番号、指定空域でのサーマルの旋回方向

13. 救助方法

13.1 目的

参加選手と主催者、救助隊の連絡体制を確立し、発生したアクシデントに迅速に対応する。

13.2 事故の通報後

- ・ 事故の通報が入った時点から、そのときの時刻連絡内容を記載する。
- ・ 大会役員は飛行中の選手と無線交信を行い、事故現場のGPSコーディネート、地形、海拔高度、ライダーの色、怪我人の名前、エントリーナンバー、怪我の状態を正確に把握する様つとめる。
- ・ どのような救助が必要か見積もる(ヘリコプターが必要かどうか。その他の救助体制)
- ・ 事故の状態を確認できる選手との連絡を続ける。
- ・ 主催者のアシストを出来る選手には、事故現場の近くで安全に着陸できる場所があれば着陸してもらう要請を行う。
- ・ 主催者は、本部で全体を把握するものと現場へ救助に向かうものとに分かれて行動する。

13.3 事故現場到着後

- ・ 状況を確認しながら本部との連絡を密にする。
- ・ 意識があるかどうか確かめる
- ・ 呼吸を確かめる

- ・ 動けるかどうか確かめる
- ・ 骨折しているか、開放骨折なのか確かめる
- ・ 出血があるかどうか、内出血か確かめる

1 3 . 4 怪我人の保護と救助 ☞

- ・ 落石を避けるために怪我人には静かに近づくこと。できたら斜面のサイドから、もしくは下からアプローチをかける。
- ・ 現場の安全を確保する。
- ・ 怪我人を保護する。
- ・ むやみに彼を動かさないこと。
- ・ 寒がっていれば、温めてあげる。
- ・ 意識がもうろうとしていても、話し掛けること。
- ・ むやみに水分を与えないこと。
- ・ 救助が到着したら、ヘリコプターが近づける準備をする。(グライダーをたたむ)
- ・ 山中からの搬送しなければならないときには、その手段を講じる。(その場合にも指示を仰ぐこと)
- ・ 救急用具の装備品 + G P S
 - ・ 救急箱
 - ・ ツリーランセット
 - ・ はしご
 - ・ 担架

1 4 大会終了後の規則 ☞

大会の結果レポートは、大会において提出された正式抗議と、それに対する処置を付記して、大会終了後3日以内に JPA に提出する。